

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/1/1 ～2017/1/31 )

### 1. 勉学の状況

前期の授業が終わったので、今回は前期の授業での自分の姿を簡単に振り返りながら、これを読んでくださっている方に「こうはなって欲しくない」という、言わば悪いお手本をお見せしようと思う。

正直に申し上げて、ほとんどの授業は何言っているのかよくわかりませんでした。資料があるので辛うじて分かる程度で、毎週話の理解も出来ない授業に行くのが苦痛で苦痛で、それゆえネガティブな気持ちになりペンを持つ気力も湧かず、さらに理解が追いついていかないという負のスパイラルが起こったのだ。そんな姿の自分が情けなく、惨めで醜いことは重々承知しているものの、それがより一層冷静さを無くしていき、ますます何もしなくなっていくのだった。

こうなった原因の一つとして、事実と解釈の誤認がある。授業が理解出来ないという事実に対して、自分は出来ない人間なんだというマイナスの解釈をしてしまい、次に進むことを自ら諦めてしまう。大切なのは、上手く行かない時に自己否定するのではなく、まるで他人事のように突き離して事実を理解し、上手く行く為に何が必要かを考え、やる事が決まればそれを本気で実行する事だ。今期の悪いお手本が良い過去の思い出となるように、来期は諦める暇も無いくらい死ぬ気で勉学に取り組みたいと思う。

### 2. 生活の状況

【小柄な自分がドイツで服屋の年末年始セールに行ってみた】

年末年始で大学が休みのある日、急にどこかへ出かけたくなった私は ハウプトバーンホフ Hauptbahnhof(中央駅) に赴き、列車の行き先案内をボーッと眺めて、目に付いた場所に行くことにした。その日はどうやら、ベートーヴェンのふるさとで旧西ドイツの首都・ボンを訪れたかったらしい。ボンまでは1時間以上かかるので、駅でコーヒー・チョコクロワッサン・アップルパイを購入し、ドイツでは珍しい晴れた日の車窓のお供にして味わった。

ボンに到着。市内をひとしきり散策した後、ベートーヴェンの実家以外特に観るところが無いことに気付く、思った以上に時間を持て余してしまった。そこで歳末セール中の大手服飾店に入り、日本と何か違いがあるのかを調べつつ、良い服があれば買おうと目論み、お店に突撃したのだが、そこには日本では考えられないような有様が広がっていた。なんと売り物である服が床に散らばっているのだ!もちろん、店員さんが落ちた服を元に戻したりするのだが、なぜか数分後には元通り(?)散らばっているのだ。その上自分が予想していた通り、自分に合うサイズの服が無かったこともあり、買う気が失せてしまった。果たしてこれは、文化の違いということで受け入れていいものかどうか思いながら帰路につく私であった…。

ちなみに、服はサイズが合うものは無いが、靴ならたとえ足が小さくてもサイズが合うものがあるので、靴が壊れたりしても安心して良いと思われる。

### 【1120 キロ移動した話】

昨年 11 月某日、私は夜の <sup>ハウプトバーンホフ</sup> Hauptbahnhof にいた。人生で初めての夜行列車・片道 560 キロの旅の始まりに、胸の高鳴りを抑えられないでいた。23時36分、さっそく 17 番線から乗車。今回の旅は贅沢に往復一等車の席を予約した。一等車はコンパートメント式の座席を相席で使う仕様。二等車より座席の幅が広く、座面は前後に動かすことが出来るので、長距離の移動でも比較的快適に過ごすことが出来る。電灯の消えた車内で、明日到着する土地に思いを寄せながら眠りについた。

翌朝 5 時 35 分、目的地に到着。そこはベルリン、まだ暁の訪れぬドイツの首都があった。ホームを降り、ベルリンではよく見かける“アインシュタインカフェ”でカフェラテを飲み時間を潰した後、ブランデンブルク門に向かった。朝に行けば観光客もいないし、良い写真も取れるだろうと意気揚々だったのだが、なぜか観光バスが 2 台、地面に垂直に並んでいて門を塞いでいた(!)

ので、あまりはっきりと見れなかったのが心残りである。そこから向かったのは <sup>ライヒスターク</sup> Reichstag(ドイツ連邦議会議事堂)、いわゆるドイツの国会議事堂である。事前に予約しておけば内部を見学でき、ガラスのドームからはベルリン市内から一望できる。見学を終え、次に向かったのは 博物館の島。シュプレー川の中洲に集まった五つの博物館を指す。ドイツの博物館は基本的に写真撮影が OK。気に入った展示物があれば写真に納めることが出来る。ちなみに私は古代ギリシャやローマの彫刻を観た。そして次に向かったのは <sup>ハッケシェ・ヘーフェ</sup> Hackesche Höfe、ベルリンで一番有名な複合カルチャー施設。東ドイツの信号機のキャラクター、“アンペルマン”のショップや新進気鋭のデザイナーの雑貨屋などの様々なお店が 8 つの区画に別れて立ち並んでいる。私はここで、牛革の変わった形の財布をお土産に購入した。ここで 1 日目の観光は終了。ホテルに戻り、早めに休憩することにした。

2 日目、雨が降ったり止んだりする中、私は ベルリンの壁を訪れた。壁に沿ってしばらく進むと、軍服姿のお兄さんが立っていた。何をしているのか聞いてみたところ、旧東ドイツ時代の各国の検問を越える際に使われたスタンプをパスポートに押してくれるとのことなので、旅の記念に押しもらった。お昼ご飯には東ドイツに来たら絶対にコレと、ある人に言われてフォーを食べてみた。どうも東ドイツにはベトナムからの移民が多いらしく、フォーの店がそこそこにある。

本当に味は美味しいので是非食べてみてほしい。その後、<sup>ポツダマーブラッツ</sup> Potsdamerplatz で偶然やっていたイベントに参加したり、美術館で絵画鑑賞したりして気がつけば夜に。ベルリン最後の晩御飯は“一心”というお店で鰯をいただいた。久しぶりの日本の味に感動して、思わず涙を流してしまった。

大袈裟な表現ではなく本当の話である。おそらく、ご飯を食べて涙を流すことは人生で何回もあることでは無いだろう。ベルリンにまた行く機会があれば、もう一度行きたい店である。

3日目の朝、ホテルをチェックアウトしてベルリンからマグデブルクに用事があって行ったのだが、マグデブルクに関してお伝えすることは本当に何も無いので割愛させていただく。なんやかんやで25時30分(!)、夜行列車に乗ってデュッセルドルフまで戻って1120キロの旅は終了。以上、ベルリン・マグデブルク2泊5日の旅行記でした。

### 【怪我人多数！？年越しだけのデンジャラスなイベント】

ドイツに限らず、ヨーロッパ各地では<sup>シルベスター</sup>Silvester(大晦日)に花火を打ち上げるのが習慣のようである。ドイツでは、花火は威力や大きさによって4段階のクラス分けがなされており、第2級以降は12月29日～31日までの三日間しか販売されない。その上、18歳以上でかつ、パスポートなどの身分証明書を持っている人でないと購入を許されない。それもそのはず、市販で90メートル上がる、威力満点のロケット花火を売っているのだ！折角の機会なので、私はそのロケット花火も含め、160発分の花火を購入した。

そしてSilvester当日、友人と共に中心街にやって来た。ドイツでは教会・病院・老人ホームの近く以外なら、家の前だろうが繁華街だろうがどこであっても花火を打って構わないらしく、

多くの人は<sup>アイトシュタット</sup>Aitstadtなどの繁華街で打ち上げる。夜11時、すでに街中ではそこかしこでロケット花火が飛び交い、爆竹により爆音が鳴り、上手く飛んでいかなかったロケット花火が目の前で炸裂する、いつテロが起こってもおかしくないようなクレイジーな状況なのであった。

こんな状況で警察が警備する意味があんのやろうかと首を傾げながら、年越しが近づいてきたので花火を準備し、次々に打ち上げていく。年を越した瞬間から15分くらいは花火の轟音と光、そして次々と怪我人を運んでいく救急車のサイレンが鳴り止まない、日本とは540度違った新年の迎え方であった。私と友人はゲラゲラ笑いながらこの狂乱の年末年始を楽しんだ。こんなデンジャラスな年末年始、あなたの是非味わってみては如何だろうか？

次回は【実は芸術の街？デュッセルでオペラ鑑賞してみた】、【デュッセルドルフ周辺の都市 第2弾】、【予告：東南欧25泊26日の旅】について書いていこうかと思えます。来月・再来月は勉学の状況で書くことがあまり無いと思われるので、生活の状況のテーマ数を増やすかもしれません。